

教師海外研修 in アフリカ

北陸の教師が見たウガンダの大地と人々

ウガンダのみなさん、ありがとう!!

教師海外研修とは?

JICAは途上国で起こっている様々な開発をめぐる問題、望ましい開発のあり方を私たち一人一人が理解し、共に生きることのできる公正な地域社会づくりに貢献するため、「開発教育」支援活動を推進しています。その一環として北陸三県の小・中・高等学校及び特別支援学校の教師を対象に国内研修と海外の現場訪問からなる研修を実施しています。この研修はその成果を教育現場で活用してもらうことを目的とし、授業での実践と周囲へ啓発普及していただくことを目指しています。

今回の6名の参加者



富山県立富山西高等学校 栄 秀樹先生 | 石川県立いしかわ特別支援学校 高田 隆二先生 | 金沢市立西南部小学校 武内 直子先生 | 金沢市立中央小学校 常光 史明先生 | 金沢市立花園小学校 中口 健太郎先生 | 加賀市立湖北小学校 南 由希子先生

国内研修 2010年4月～7月

「教師海外研修」の目的達成のための研修を実施

- 「教師海外研修」目的の共有
- 政府開発援助(ODA)とJICA事業への理解
- 開発教育に関わる意見交換と共通認識の構築
- 開発教育・参加型ワークショップ(パーム油開発と貧困問題)実施
- 海外研修での活動準備
- 訪問国ウガンダの理解

●ウガンダってどんな国?

イギリスのチャールズは美しい自然を持つウガンダを「アフリカの真珠」と呼んだ。マウンテンゴリラのいる山や、白ナイルの源流であるビクトリア湖が存在する。赤道直下でありながら標高が高く、過ごしやすい。



ウガンダ共和国の主要データ

- 人口: 3,165万人(2008年)(世銀)
- 面積: 24.1万平方キロメートル(ほぼ本州大)
- 首都: カンパラ(標高1,312メートル)
- 言語: 英語、ガンダ語
- 民族: バガンダ族、ランゴ族、アチョリ族等
- 宗教: キリスト教、伝統宗教、イスラム教
- 通貨: ウガンダ・シリング
- 平均寿命: 49歳(外務省)
- 主要産業: 鮮魚、コーヒー、紅茶、綿花、銅、燐鉱石、タンクステン、繊維、タバコ、セメント

海外研修 2010年8月3日～13日

学校



はい、先生!



授業を熱心に聞く子どもたち

農業



ウガンダの水田



ネリカの説明を受ける様子

保健

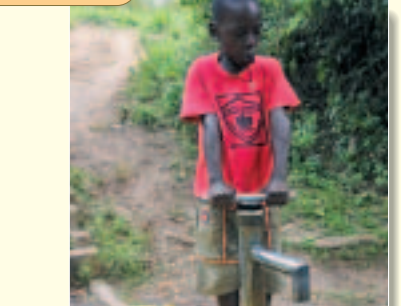


病院の様子



看護婦として活動中の青年海外協力隊員

インフラ



貴重な水



建設用の石材を運ぶ女性

※ネリカ: アフリカの食糧事情を改善するために開発されたイネ品種。耐乾燥性・耐病虫害性を併せ持つ(英語: NERICA, New rice for Africa)。

海外研修を終えて



富山県立富山西高等学校 栄 秀樹先生

アフリカでの毎日が夢のような日々であり、そこでの青年海外協力隊員等との出会いに感銘を受けました。この研修を通して、教員としての視野がぐんと広がり、今後の授業の大きなヒントを得ることができました。もっと多くの教員に参加してもらい、開発教育への理解を深めてもらいたいと思います。

金沢市立西南部小学校 武内 直子先生

研修だけ、とても楽しかった。ウガンダで見えるものはすべて新鮮で刺激的であり、多くの人々との出会いがあった。ウガンダの人々、青年海外協力隊の隊員、JICAスタッフの方々、そして一緒に行った仲間…。すべてのことが、私の「たからもの」となった。

加賀市立湖北小学校 南 由希子先生

ナイル川に育まれた緑豊かなウガンダには、高層ビルが立ち並ぶ都市部とスラム街や電気も水道もない村々があり、大きな経済的格差が存在します。しかし、どこも人とエネルギーに溢れ、特に子どもたちの目はキラキラと輝いていました。この研修での驚きや感動を生徒たちに伝え、世界に目を向けるきっかけを提供していきます。



金沢市立花園小学校 中口 健太郎先生

私の授業で水運びを体験した生徒は、ウガンダの子どもたちの苦勞と水の貴重さ、そして日本の恵まれた環境を認識すると共に、ウガンダの子供の「日本と比べれば、水はただで飲めるからいいよ。」という前向きな考え方に驚いていました。「不便ではあるが、不幸ではない」という運しさがウガンダに溢れています。



金沢市立中央小学校 常光 史明先生

ウガンダのどこへ行っても笑顔で話しかけてくる子どもたち、明るく陽気な人々たち、夢と情熱に燃えている協力隊を始めとするウガンダで活躍する日本人。そんな人々との出会いを含め研修は感動の連続でした。今回の研修が、自分自身の夢の実現に向かって動き出す大きな一歩になりました。

事後研修・研修成果の 実践 2010年9月～

乞うご期待!

- 国内、海外の研修成果の授業での活用実践の検討
- 実践授業の実施、その結果の共有と検討
- 一般向け報告会等による啓蒙普及の実施

石川県立いしかわ特別支援学校 高田 隆二先生

ウガンダに関する私の授業を聞き、本校生徒が「オリオチャ・クイズ」を通して交流先の小学校にウガンダを紹介したいという強い希望を持ってくれた。クイズは他校の生徒や保護者に大変好評でした。状況を知り、何をすべきか考え、「できる行動を取る!」真の開発教育を実践できたことを確信しました。

地域別研修

「サブ・サハラアフリカ地域における学校運営改善コース」研修報告

エチオピア、ガーナ、ザンビア、マラウイの小学校校長、教育委員会の教育長、指導主事からなる研修員12名が、2010年8月30日から10月9日まで石川県で学校運営改善の研修を受講しました。

サブサハラ※地域アフリカ各国では教育行政の整備や住民の学校教育への理解が不十分であり、効果的な教育の実践や就学率の向上を阻害する要因となっています。この研修では金沢大学教育学類田邊教授の指導の下、金沢市や白山市の小・中学校の訪問、関係者との意見交換、生徒たちとの交流等を行いました。

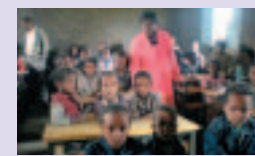
彼らはPTA活動、特に保護者や地域住民の協力を得て実施されている登下校時の見守りや挨拶運動、運動会の運営には、地域社会と学校の強いつながりの存在を見出し、自国との大きな相違を感じ感銘を受けていました。



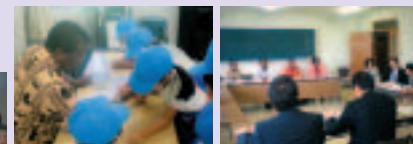
授業に参加しました

石川県での研修受講後エチオピアに移動し、JICAが同国で実施中の「HO! Manabuプロジェクト※」の視察と関係者との意見交換を行いました。

一連の研修を通じて地域社会に根ざした学校運営のあり方を深く考えるポイントを見出したようです。金沢市・白山市の学校訪問の際に子どもたちとの交流を心から楽しんでいる様子に、子どもたちを思う気持ちが溢れていました。その気持ちで学校運営の改善に取り組んでいくことを期待しています。



エチオピアの小学校を視察する研修員



日本の児童と腕相撲! 研修での意見交換会の様子

※サブサハラ: アフリカ大陸のサハラ砂漠より南の地域
※HO! Manabuプロジェクト: JICAエチオピアが実施する住民参加型学校運営プロジェクト

JICAが実施する研修

開発途上国の経済発展に貢献する人材の育成を目的に、各国政府からの要請に基づき行政官や技術者、研究者を日本またはその他の国で研修員として受け入れるJICAの技術協力活動の一つ。